特別養護老人ホームたちばなの里
開設20周年記念祝辞



三ノ瀬校区自治連合会
会長
曽和 勝次

特別養護老人ホームたちばなの里が創立20周年を迎えられましたことは、誠に慶ばしいことと心からお祝い申し上げます。

また、三ノ瀬校区における高齢者とその家族の支えとなる事業など地域福祉の推進に、ご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、私が特別養護老人ホームたちばなの里と関わりをもちましたのは、平成25年ごろに公民館活動で地域包括支援センター事業に出会ってからでした。

公民館でおこなわれる敬老大会事業では地域包括支援センターたちばなの里のスタッフの皆さんが、寸劇やクイズなど工夫をこらし、優しく高齢者の皆さんに接せられる姿に敬意を感じました。

この様に地域高齢者の皆さんと共に、これからも、地域の人々に信頼される施設としてますます発展されることを念願し、私のお祝いのことばといたします。



太平寺校区自治連合会
会長
山田　稔

開設20周年誠におめでとうございます。

聞いていた話によると、平成８年先代牧野光夫先生は、当時の東大阪市長から特別養護老人ホームを市西南部に建設、運営されるよう強い要請を受けられていたようです。

多方面に渡る有識者の方々にも相談され、助言を頂きながら、苦労を重ね、やっとの思いで「たちばなの里」を開設し、20周年を迎えるに至られました。

開所式で、先代牧野院長が声高らかに強調されていたのが、「地域に開かれた特養にして行きたい。」という言葉が印象的でした。

その意思は、受け継がれ、施設長を中心に職員の方々の献身的な介護活動は勿論、その一助を担う地域のボランティアのみなさんも、自らの意思で参加され、交流会も行われ、まさしく地域に開かれた「たちばなの里」を展開されておられます。私も微力ながら、「歌声喫茶」と称して、月２回、ギターを持ち込み、みんなで唄を歌いながら、楽しいひと時を過ごしています。

ちなみに、私の亡き兄（17歳上）は、先代光夫先生と、父は先々代と、それぞれ同級生だったというのも何かの縁かも知れません。

今後とも「たちばなの里」らしさを持続され、更なる前進を祈っています。



荒川校区自治連合会
会長
吉田 正夫

特別養護老人ホームたちばなの里が創立20周年を迎えられましたことは、誠に慶ばしいこととお祝い申し上げます。

また、荒川校区における地域福祉の推進に、ご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、特別養護老人ホームたちばなの里の地域包括支援センターでは、公民館・集会所等で「ふれあいたちばな会出張相談」を開催され、体操やお話、更に健康維持では毎回有意義な情報で学び、特に心配な介護の相談には気軽に乗ってもらっている事。過日、卒寿も超えてお母さんは永眠しましたが長期の介護・治療・養生中も医療と介護スタッフの連携がたいへん良く、安心な環境の基で過ごせました。困難な時には多くの方々から「大丈夫ですよ」「決して我慢をしないで」等々いつも変わらない笑顔の声かけに助けられ本当に感謝していました。昨今の事件事故を聞く度にお世話になったことを思い出します。との事でした。様々な事例から介護される方・ご家族様・ホームの職員様そして微力ではありますが幣自治会の四者がひとつとなる連携の大切さを再考しています。

最後になりましたが、たちばなの里様の益々の発展を祈念致します。